

研修だより

No.2

6年2組 本間先生提案授業・国語科「時計の時間と心の時間」

5月19日に6年2組の本間先生の学級で提案授業が行われました。「自己実現を目指す深い学び～他者と関わり合い、探究する学習の充実を通して～」に向けて、今年度の研究の指針を示してくださいました。本間先生の軽快なテンポと温かな雰囲気の中で、子どもたちは伸びやかに頑張っていましたね。事後研で出た意見などをまとめましたので、ぜひご覧になってください。

全員の意見を出し、大切にしたいという視覚的支援も！

あまり、友達と「私のリズムは～」とかやらない？それならどうして筆者は・・・

ループリックを構築することが
できるポートフォリオ！

あの実験を選んだのはさ～

【授業者より】

○仮説1に関わって

- ・デザインシートを使うことで毎回、子どもたちから「なにをするの？」がない。
- ・ループリックを活用することで、子どもも目指すところが確認しやすい。
- ・活動を自由に・・・とまではいかなかった。こちら側が用意した（事例4つ）ものを考えることができた。
- ・4時間のうち2時間しか自由な学びの時間を設定することができなかった

○仮説2に関わって

- ・下級生に・・・全校に・・・などの大きなテーマのときに友達と交流する必要感が出てくる。それが今回は弱かったため、無理やり交流をいれたような感じになってしまった。
- ・事例1の経験、体験談を引き出すのに、強引にもって行ってしまった部分がある

【事後研協議から】

- 個人思考について、自分から活動形態を選び、移動し進んで考えようとしていたのが良かった。
- 課題とまとめが繋がっていた。
- ルーブリックや学びのデザインがあると、目指すゴールがわかってよい。
- 授業構想シートを使うことで、本時の学習がゴールにつながりやすい。
- 補助黒板で効果的な掲示物（毎回振り返ることができる）
- △事例の意図を導くのと、自分の主張の事例を考える時間の2パックで、ルーブリックを使ってもよかった。
- △個人思考の時間：読み取り表現が難しい様子の子がいたので、ヒントになる言葉や手立てになるものがあるのではないか
- △交流：話し合いの中でどのくらい気づきがあったのだろうか。毎回、同じメンバーではなく違うメンバーで取り組むと新しい気づきがあるのではないか。
- △ルーブリック：1時間の最後に振り返りがあっても良いのではないか。
- Q.授業構想シートの作り方はどのように行ったのだろうか。
- Q.ルーブリックの共有方法はどのようなものがよいのか。

【校長先生・教頭先生より】

- ・「子どもが主役」に向けて、忙しい日々の中で、この早い時期に今年度の指針を示してくれた。
- ・今回の授業を受けて、「自分ならどのように進めるかな」とそれぞれが模索していくことが大切。
- ・「授業構想シート」の活用方法について、まだまだ可能性がたくさんあるからこそ、各学級で実践を積み重ねていく必要がある。

本間先生にインタビュー！

提案授業、お疲れさまでした！貴重な学びの場をありがとうございます！事後研の中で質問があった「授業構想シートの作り方」ですが、6年2組ではどのような流れで作られていったのですか？



- ①学びスタート→教材との出会い（音読、感想の交流）
- ②課題設定→教科書を読み、**わからなかったところや疑問に思ったことを交流**。教科書を読んでわかりそうなものをみんなで考える課題とした。
- ③学習内容→単元は8時間扱いで、最後に意見文を書くことを伝える。計画を立てる時間、意見文を書き、交流する時間など必要な部分をのぞいた**2時間（少なすぎ）で何を学習するかを考えた**。
- ④評価→意見文の評価基準の確認。 の順で今回は作成しました。

今回、単元のゴールである意見文を書く活動は外せませんでした。わからなかったことを読み取るのではなく、「説得力のある意見文を書くために、この文章からどんなことを学べばよいか。」という視点で学習の流れを考えたり、「何ができればAだと思う？」と子どもと一緒に評価の基準を考えたりすれば、もっと子どもの意見を取り入れられたと今になって思います。

単元のゴールが決まっていると、教師主導の学習デザインになってしまうと感じました。反省です。教科や単元などで、デザインの仕方や順番は変わってくると思いますが、子どもの思いを引き出し、単元に取り入れることが大切だと感じました。「百聞は一見にしかず」みなさんも、実際にやってみての成果や課題など交流していくと、よりよい学習デザインの仕方が見つかると思います。

ルーブリックを作成した授業を行ってみて、その活用方法にどのような可能性を感じましたか？

子どもにとって、目指す姿や取り組むことが明確になるので、頑張ろうという気持ちにつながると感じました。慣れるまで教師も子どもも時間はかかるかもしれませんが、実践していく価値はあると思います。

